

# 議会運営委員会 行政視察報告

4月22日と23日の両日、委員5名、副議長、事務局随員2名の合計8名で、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）を視察してまいりました。

## ■視察目的

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催されている今回の国際博覧会のサブテーマである「多様で心身ともに健康な生き方」「持続可能な社会・経済システム」は、今後の地方議会においても重視すべきものであります。

加えて、多くの国と地域が集まり、また、多数の国際機関などが提示する今後の方向性については、今後の本市の観光誘客に関する施策を検討する際の参考にもなるものと考えられたことから、今回の視察を行ったものであります。



▶会場入口（西ゲート）



▶大屋根リング上から

## ■石川県関連の展示

輪島塗地球儀は、宇宙から見た地球の夜景を輪島塗で表現している。



▶県関係の展示品



また、同じパビリオンの中には、石川県の伝統工芸の紹介もあり、その中には、九谷焼の絵皿等の展示もされていました。これも国内外にわが市の伝統工芸をPRする絶好の機会になっているものと思われました。

その他にも、国内の有名観光地

るものです。

この地球儀は、昨年の能登半島地震や奥能登豪雨においても奇跡的に無事であり、能登地方の復旧・復興に向けてのシンボルとして展示されていました。

パビリオンの中では、幻想的な雰囲気の中で展示されていることもあり、大きな2つの災害から立ち直る強い意志が日本国内のみならず、世界にアピールされていることを強く感じました。

をVR動画で紹介するブースがあり、当市の3温泉の映像をVRゴーグルを通して360度、見渡すことができ、温泉、自然等の魅力を仮想現実世界で実感できるものでありました。

ここは多くの来場客でにぎわっており、これを機に、誘客促進につながることを大いに期待したいと思います。

その他にも公立小松大学がホンジュラス共和国ブースで展示していた空間再現ディスプレイによるマヤ文明の「コパン遺跡」の3D映像などの先進的な取組を見学することができました。



▶3温泉を仮想現実世界で紹介



▶3D映像による展示

## ■「持続可能な社会・経済システム」を目指す取組

会場内では、カーボンニュートラルの観点から、最新鋭のEVバスが移動手段として運行されていました。自動運転のほか、道路に埋められたコイルからワイヤレスで電力を送り、バッテリーに充電しながら走行するというものでした。また、会場内には未来の食と農

を考えるパビリオンもありました。こちらは、本市においても課題とされている「担い手不足」及び「農業の重労働」を多彩なイノベーションで解決しようとするものでした。また、研究段階ということでしたが、完全無人化で、多様な農作業を農作業機1台で各種アタッチメントの交換のみで全て行うといったもので、農家の労働環境の向上が期待できるものでしたが、まだ課題は多いように感じました。



▶最新鋭のEVバス



▶農家の労働環境向上が期待されています。

## ■多彩な先進的取組

空飛ぶクルマの展示がされていました。また、デモフライトは天候と時間の都合で見学することができませんでしたが、想像以上に大型の機体であるとの印象をいただきました。自動運転の自動車が行き交った、環境にやさしく、そして人々の暮らしを豊かにする未来社会の実現も、それほど遠い先のことはないと感じられました。



▶空飛ぶクルマの展示

デジタル田園健康特区に指定された本市においても、その優位性を活かしたイノベーションや先進的なテクノロジーの成果を市民がいち早く実感できる社会を実現するため、議会としても引き続き調査・研究に尽力することが必要であるとあらためて認識したところです。

#### ■視察を終えて

急速に技術の進展が見込まれる今後の社会にあって、市民が議会に求めるものも自ずと変化していくものと思われます。

そのような中にあって、しっかりと市民の負託にこたえられる議会運営及びさらなる議会改革を進める上で、今回の視察で学んだことを、今後に活かしていきたいと思っています。